

●1997.6.12 3局会議後 谷九・天山閣にて

●出席 Na (小1) Ya (小5) Oo (小5) Yo (幼4歳) Ku (小6) Mi (養担)

初めに……編集局長談……

支部ニュースでシリーズで問いかけてきたが、同じような事があるのか、特徴的な問題の出てくる背景があるのか、振り返りながら考えてみたい。それらの問題は、教師サイドからでてくることもあれば、自分達で解決できること、もっと大きな所から出てくる問題もあるだろう。僕らでできることもまとめていきたい。

あれていた子たちもちゃんとしてる？

Ku 去年の荒れていた子らが、中学でちゃんとしているんですって。

Na それは、先輩とかがこわくて？

Ku それもあるだろうし、先生とかも。…。

Ku かなりひどかったですよ、授業中に抜け出してコンビニに行ったり……。

Oo コンビニ行くの!？ お金持って来てんだな。

Ku で、防火扉をあっちこっち閉めて、密室を作って、そこで宴会をやっている。まあ、ジュースとかお菓子 なんかだけ。

Na そこへ教師が一升瓶持って行って、ドンッとすわるなんてのは？ (笑)

大人の文化と子どもの文化がいっしょくた

Oo 子どもの会話に、花見とか宴会とかいう言葉が広がってない？「今日、花見に行きました」とか、「今日はみんなで宴会をしました」とか……。ジュースとか お茶でやっているんだけど、親が酒飲む場に子どもを平気でつれていっている。大人の文化みたいなものを、楽しむのが良いのか悪いのか。昔は子どもの文化と大人の文化みたいなものがあっただけ、今はイッショクタになってしまっているのかなあ。

皆 あるなあ。なんか座談会らしい話やね。(笑)

Na 「ニューハーフの人と一緒にご飯食べた」と一年生がそんな言葉を知っている。

Mi 子どもの文化と大人の文化がなくなり、大人のミニチュアのように染まっている。

子どもの遊び場はなく、親は忙しい。大人の文化もなく、皆消費社会にどっぷり

Oo 日記を見ても、野球をやっている子はそればかり。他にはゲームボーイならゲームボーイ、高オニなら高オニ、お絵かきならお絵かきばかりずうっと日記に書いている。昔は色々やったけど今は幅がない。自然が無くなっている。「遊び予約制」なんていうこともある。

Yo 幼稚園児でも約束が成立しないで、お帰りの時にワーンと泣く子もいる。昔みたいに、三々五々集まってきて遊ぶということがない。

Na 友だちの家に遊びに行って、おやつを要求する子がいる。

Mi お茶くれる？という子もいた。子ども達の回りに、物があり余っているんだろうな。

Yo 大人の文化も無くなっているのでは？テレビゲームを親が「オレに貸せ」と言って夢中になっている。親の世代も子どものためにというより、まず自分の趣味が優先。子どものために我慢しようとか苦労しようとかが少ない。

Oo ファミコンでも周囲の“文化”にどっぷりあり、やっている人は、そのことでは子どもと話が合うわけだが。

大変そうに見える子ども達でも

Ya 今担任している子らはムチャかわいい。4年まで学級崩壊で大変だった子らなのに。これはなんだ？

○ ○ 僕も同学年なんだが、以前は持ち手がなかった子らだ。1年の暗から放任と管理の両極端を受けてきた子らで、「なんやー」ということも学年全体にあって、大変な子たちと思っていた。しかし子どもは賢い。教師をよく見ていて切り替えたんだ。だから教師の側の接し方が大事。子どもは色々あるけど、やっぱり子どもで、「まっすぐ育ちたい」「一生懸命やりたい」と思っている。だけど、どうやってそれをやるか。今までは、自己主張がいい、本音を出すんだと言って、ぷつかり合わせられていた。40通りの本音が出たらどうするんか、というフォローがなくて、やらされてきた子達だった。いろいろな先生に持ってもらうことはいいが、子どもをどう育てるかということ大切に先生になっていないと……。心底の所でどう育てるかということを持っていて伝えていけば、子どもにも伝わると思う。先生どうし言いにくいとか、教師の世界がマニュアル化していることが問題だと思う。

教えて 育てたい

Ya 春の遠足は二色浜で貝掘りをしたが、とても喜んだ。今まで色んな事を教えてもらってさいていなかったみたい。

Mi 放任の自由があっても、もう片方で管理でギュと絞められるのではなあ。

Na 自由にしていっていいと言っても、子ども達は何をしていいかわからなくなり、嫌気もきしてくる。不満も残る。それよりも、さちっと教えてもらうことは、子どもにとって大事。

○ ○ シリーズの第1回にあったように、先生によっては宿題出さん主義だという人もいる。子どもはその時その時に色々言うが「傍らはもっと賢くなりたいねん」という気持がある。学校が塾化していたり「もっと遊ばせる」だけではダメなのに、子どもを主権者にするのに必要なものの合意形成が、職員間でなかなかできない。

いろいろな面を見せる子どもたち

○ ○ うちの学校に長ぐつにおしっこする子がいる。よくある。あれはなんだ？

Na 「ガハハハツ……」と笑い飛ばしては？

Mi 試しているんだな。挑発に乗ったらあかん。「長靴が悲しがってる」なんて言ったらあかん。

○ ○ よくある話やなあ。「長靴の気持ち考えたことある？」なんてね。(笑)

Na 今日、避難訓練だったが本気にして「今日給食ないねんなあ」とマジに心配する子もいた。

Yo 4才児でも取組でお帰りが遅くなりそうだと、「おけいこだから」と泣き出す子がいる。

○ ○ スイカの絵で僕は幼稚園やめた。(えっ?)

Ya よくおぼえているねえ。(笑)

○ ○ 幼稚園の頃、参観でスイカの絵を描いたのだが、変な絵だとみんなに笑われ、すごいショックで、それで幼稚園イヤになって……。 (笑)

皆 かわいいのにねえ。(大笑)

○ ○ 「こうあらねばならない、こう描かなかった、だから悪い」というわけだが、絵ってそんなものじゃあないだろう？ その時なんで笑われているのかわからなかった。後でわかったけど。でも学校の中では、そういうことあってはならないだろう？

Na そうね。避難訓練の時の子も、皆が何で笑っているのかすごく気にする。フォローしてあげないと心配。

教師の幅とゆとりが、子どもにとって大事

○ ○ 期待している答えは一つであっても、子ども自身の捉え方や表現の仕方は、すごく幅があるから、違うものが出てきたときにも、いいか悪いかというだけでは判断はつけられへんよね。多くの所では、○か×かでやられるから、本当はもっと伸びていくところが摘み取られる。そういう点では傍らの仕事はデリケートで大切なものなのに、つい「はよしい」ばかり言っている。

Na 「はよしいや、時間無いで」とね。

Yo もう早くでさて待っている子もいる、その子の時間をどうするかということもある。

○ ○ クラスの人数多すぎるんだなあ。 — 続く —

この後、それぞれのサークルとの出会いなどを話しながら、10時半ごろまで熱心に歓談。